

17 異常の早期対応を患者ができる為の個別体調表を作成しての評価

飯田市立病院 腎センター 村松美幸、佐藤なをみ、井原幸枝、
辻元治、池沼千恵、仲田美智子、木下富喜子

【はじめに】

当院、腎センターで、3年前に行なった患者の体調に関する意識付け調査では「体調表を使用することで、早期に異常の対応ができる」との結論に至った。早期に異常を予測する事が、早期の対応につながると考えていた。しかし、その後足の傷を放置し、潰瘍から下肢切断に至った症例や、2日前から言語障害に気づいたが、透析日まで来院されず、CTで脳梗塞を認めた症例を経験した。2例とも体調変化に気づきながら受診できなかった事から、体調表が自己管理に活用されていない事がわかった。質問紙調査にて、3年前の体調表の活用状況を確認し、結果を基に、異常時に早期対応ができるためにはどうしたらよいか検討した。患者と一緒に個別体調表を作成し、透析前のウォーキングカンファレンスの場面で、体調表を見ながら状態、変化などを共有することで、患者の自己管理、病状に対する認識に変化がみられた。

【対象及び方法】

<対象>

- ①3年前に当院腎センターで作成した体調表を使用した透析患者12名
- ②今回、個別体調表を使用した透析患者18名中、協力が得られた14名

<方法>

- 1)対象①の方に3年前に作成した体調表の活用状況を質問紙に基づき聞き取り調査。
- 2)1)の結果を受けて、受持ち看護師と患者が相談し、個別体調表を作成。
- 3)対象②の方に作成した個別体調表と、症状別一覧表を配布。3週間使用後1回目の質問紙調査。
- 4)看護師へ1回目のアンケートをとり、個別体調表の内容についてチームカンファレンスをし、

村松 美幸 飯田市立病院 看護部 腎センター
〒395-8502 飯田市八幡町 438 0265-21-1255

個別体調表を作成、使用に関する統一事項を決定。

5)3)4)の結果を基に、再度、個別体調表を患者と見直し作成。

6)患者への2回目の質問紙調査、2回目の看護師アンケートを行い評価。

<用語の操作上の定義>

個別体調表：患者が自己管理をする上で現在特に注目する症状と内容が簡潔に書かれている物。

症状別一覧表：緊急来院が必要な症状と、考えられる疾患。気になる症状があった時の連絡方法。

ウォーキングカンファレンス：透析開始前に、患者と看護師で、個別体調表を見ながら、状態について情報交換し、本日の透析計画を立てる。

【結果・考察】

3年前に実際体調表を使用した患者12名に質問紙調査を行った結果、継続使用者はいなかった。以前の体調表は、患者個々に合わせた物でないため使用しづらく、自分自身の事として意識しにくいことがわかった。また、「皆が同じ体調表を同じように使うのは難しい」「透析患者独自の物でない」の声も聞かれた。そこで、患者個々に合わせた体調表が必要と考え、患者の今の状態を把握している受持ち看護師が、患者と相談し体調表を作成した。(表1参照)作成に際しては、現在の患者の問題に焦点を絞り、簡潔でわかりやすいものにした。

坂井は、1)「人は自分でやると決めた事でないと積極的に行動する事は難しい。たとえ一時的にできたとしても、継続できないものである。人から与えられた目標でなく、自分で決めた目標という意識を患者に持ってもらうことが第一歩である」と述べている。このことから、3年前の体調表は医療者側からの一方的な指導であり、患者が

主体性を持って行動できる物ではなかったため、継続使用ができなかったと考えた。

異常時受診しなかった約8割の患者は体調の変化に気づいていながら、受診していない事が明らかになった。異常時受診しなかった理由は、「目が見えなくなっただけで、痛みがなかったので次の透析まで大丈夫と思った」「一日おきの透析の時に看護師に診てもらっているから大丈夫」「いつもと様子が違って、何をどうしたらいいかわからない」という言葉も多く聞かれた。また、緊急来院できなかった患者からは、「病識がない」と答えた反面、「自分の経験から、どうすれば良いか判断できる」の声も聞かれた。このことから、異常に気づいていないのではなく次の対処方法へのイメージが正確にできないため、早期対応につながらない事がわかった。(図1参照)患者が、

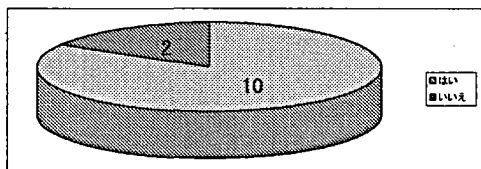


図1 体調が悪い時受診しなかった時がある状態の変化に気づいてから、次の適切な行動ができるためには、異常が起きた時の対処方法が明確になっている事が必要であると考えた。

質問紙調査の結果から、患者に合わせた体調表にするには、患者と看護師が相談しながら一緒に作成することが必要と考えた。また、患者が対処方法を明確にするためには、患者自身の体に、今後起こりうる症状を予測できる事と、体調に変化があった時に、まず何をしたら良いかを理解してもらう事が大切と考え、新たな個別体調表と症状別一覧表を作成した。作成に際しては、患者の現在の問題に焦点をあて、注目する症状に対する自己管理の方法、体調に変化があった時の対処方法を記載し、簡単でわかりやすい個別体調表にした。

3年前の体調表と個別体調表の大きな違いは、(表2参照)チェック項目が減った事と、作成者に患者が加わった事である。個別体調表を使用した患者からは、「時々声をかけてくれないと忘れてしまう」「質問して刺激してほしい」「個別体調表は見ているけど、内容について聞かれるとわからない」などの言葉があり、自分自身のものになっていないことがわかった。これは、個別体調表の使用方法に問題があると考え、透析前のウォーキングカンファレンスで、個別体調表を見ながら、現在の問題について情報交換をした。

表2 体調表の比較

	3年前の体調表	個別体調表
特徴	・16項目の症状を羅列 ・誰にも当てはまる	・患者に合わせて個別に作成 ・注目する症状3~4個記入 ・症状別に5項目に分けが-版にした
作成者	・看護師	・患者と受持ち看護師
活用方法	・時々声をかけた	・体調表を個人の加齢に挟み込んだ ・ウォーキングカンファレンスで毎日患者と共に用紙を見て必ず確認
患者の声	・項目が多い ・患者全員が同じ様に使うのは難しい ・意識していない	・自分の体で注目する所がわかった ・看護師が声を毎回かけてくれるので意識ができる

その後の質問紙調査では、体調表は活用されており、体調表にかかれた問題点について全部言えた患者が2人から11人に増えた。また「自分の体で注目するところが具体的にわかる」「異常時に、行動することが出来そう」と全員が、答えている。(図2参照)

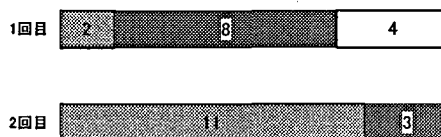


図2 個別体調表において自分で気をつけるべき項目を言う事ができる

坂井は1)「効果的な患者教育を実施する為には、内容は元より実施の工夫が必要である」と述べている。このことから、体調表をカンファレンスで共有しながら教育的関わりを繰り返し持ったことは、効果的な患者教育につながったと考える。その結果、患者は異常時にどうすれば良いかのイメージが正確にできると言える。

個別体調表を作成して3週間後、患者・看護師に個別体調表の作成について質問紙調査をおこなった。個別体調表を作成するときに、「相談できた」と答えた患者と看護師の比較では、大きな差が見られた。ウォーキングカンファレンスで体調表を使用した前後の2回とも、「相談できた」の思いにずれがあった。患者からは、「看護師におまかせだった」「決めてもらった」と言葉が多く聞かれた。また、看護師は個別体調表を患者と共に作る事が難しかったと答えている。しかし、その理由は「一緒に作る事が、難しい」から「患

者に主体性を持っていただくための関わりが難しい」に変わっている。(図3参照)

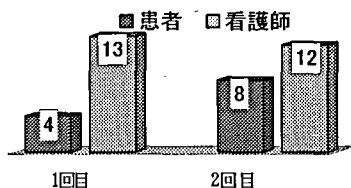


図3 個別体調表作成にあたり、患者の体についての注目を相談しながら決められたと思ったか

この結果から、個別体調表と一緒に作成する事をまだ看護師からの一方的なアプローチと捉えている患者もいる事がわかった。しかし、看護師が患者の主体性を高める関わりを意識してきたことで、良いコミュニケーションが取れ、患者と看護師の思いのずれが縮まったと考える。

【結語】

体調表を、患者と共に作成することで、患者は今の自分の問題を、正しく理解する事ができた。また、透析前のウォーキングカンファレンスで、体調表を基に教育的関わりを持つ事で、異常があった時にどうすれば良いか正確にイメージできることがわかった。

私達が、更に効果的な患者教育を実施していく為に、患者のやる気や、能力を最大限に生かす関わり方を学ぶことが必要であり、指導技術や、コミュニケーション能力を向上させる事が重要と考える。

【参考・引用文献】

- 1) 坂井慶子：患者教育に役立つ「ファクシ」 患者と共に目標を明確化する、看護技術、2003-1・2,3
- 2) 河口てる子：健康教育におけるモデリング理論の将来、看護研究、Vol.30 No.6 1997、12
- 3) 安酸 史子：糖尿病患者教育と自己効力 看護研究 Vol.30 No.6 1997、12
- 4) 飯田市立病院 腎センター：患者の体調に関する意識付け調査、第50回長野県透析研究会

表1 個別体調表

さん

おはようございます。今朝の体調はいかがですか？

下記のことにお気を付けてください。

血圧

体重

シヤント

足

出血傾向

薬

不整脈

皮膚の状態

羅列してある左の項目を選択して
必要な内容を個別で記入する。

安全な透析を続けていくために

- ① 毎日同じ時間に血圧、体重を測る。
- ② 安全で楽な透析を受けるために規則正しい食事を取る。
- ③ 薬を正しく内服する。
- ④ 運動で筋力をつけて、骨折を予防する。
- ⑤ 透析後の入浴は禁止。
- ⑥ 毎日シヤントの音を確認する。
- ⑦ 熱や傷の感染に気を付ける。

心配な事がある時は気楽にスタッフに声をかけて聞いて下さい。